



# 羽田ミヤコタナゴ通信



## 通信

ミヤコタナゴは、羽田地区の水路に生息し、「オシャラクブナ」と呼び、私が幼いころに親しんでいた魚です。藻類を食す雑食性のタナゴで、東京で発見され「東京タナゴ」⇒「ミヤコタナゴ」となっているそうです。

私の記憶では、羽田沼にはジュンサイ（蓴菜）やショウブ（菖蒲）が生育し、水路にはドジョウやナマズ等が生息し、食卓には収穫したマツカサ貝（カラス貝）が並んでいました。

今ではミヤコタナゴ生息地保護区に指定されていますが、平成7年以降ミヤコタナゴの個体数は徐々に減少し、平成13年以降確認されておりません。原因は水質の悪化、周辺環境の変化、営農行為の変化等が考えられます。

羽田沼は栃木県有数のハクチョウの飛来地であり、以前は給餌がなされており、給餌された餌の食べ残しや増加した水鳥たちの糞により、水質が年々悪化していきました。給餌による水質の悪化がミヤコタナゴの生息環境を脅かしていたことは間違いのないようです。「羽田沼白鳥を守る会」は平成18年から給餌制限をし、平成22年より全面禁止としております。水質浄化のうえでも野生動物への餌付けは好ましくありませんので、自粛してくださるようお願い致します。

羽田のミヤコタナゴは昭和63年に水路で発見され、その後平成6年12月に羽田ミヤコタナゴ生息地保護区に環境省（当時は環境庁）から指定された経緯があります。保護地指定にともない「羽田ミヤコタナゴ保存会」が発足し、環境省、栃木県から生息地保護区の管理業務（巡視、清掃等）を受託し、保護活動を行っています。また指定以降、栃木県では保護増殖事業として、水産試験場やながわ水遊園での飼育、外来魚駆除、生息状況調査、さらに様々な調査研究等をおこなっています。ミヤコタナゴの試験放流やセルピン調査、水路の生物調査等では羽田小学校児童の協力も頂いています。

私たちがやるべきことは、従来の羽田沼周辺の自然環境の復元になると思います。そのためにも今から、羽田の自然環境を守ることを皆さんで推進しようではありませんか。  
(羽田自治会長 松本 徹男)

## トピック

- 1 これまでの取組軌跡と今後の計画
- 2 羽田沼から流れ出る水量の観測を開始しました
- 3 羽田太々神楽が執り行われます
- 4 来年度の活動について



川の流れるように湧き出す湧水  
平成29年10月12日撮影

～ 羽田の水は澄んでいた!! ～